

Student Voice

リハビリテーション科学研究科 身体・認知活動

兵庫医科大学病院 勤務

現在のお仕事内容は？

主に急性期の患者さんに対しての社会復帰や在宅復帰を目指した作業療法を実施しています。

本学大学院進学のかっけは？

兵庫医科大学病院で作業療法士として勤務する中で、日常の臨床で生じる疑問や課題を学術的に深め、患者様へ還元したいと考えたことがきっかけです。本学大学院は、自院での勤務経験を活かせる環境に加え、指導体制や開講形態など「働きながらも学びやすい環境」が整っています。そのため、仕事と研究の両立が可能と感じて志望いたしました。

大学院での学びで、お仕事で役に立つ内容(知識・スキル)はありますか？

1人1人の患者さんの動作を、より多角的・客観的に分析しようとする視点が身についたと思います。単に観察するだけでなく、研究手法に基づく評価やデータの捉え方を学び、急性期の限られた時間の中でも、より根拠のある作業療法を提供することを心がけています。

大学院での学びを通して、ご自身に何か変化はありましたか？

根拠を大切にする姿勢：感覚だけに頼らず、データや論文などのエビデンスを意識して臨床に向き合えるようになったと思います。指導や説明への自信：論理的に考える力がついたことで、患者や実習生に対して自信を持って伝えられていると思います。



佐東 健さん

2026年度入学者

大学院ではどのようなことを学んでいますか？

現在の研究テーマとしては、パーキンソン病患者における食事動作中の上肢運動の特徴に関する研究を行っています。大学院では、臨床疑問(食事動作の課題)を検証するための研究デザイン立案、動作データの収集・分析手法、最終的な論文執筆に向けたエビデンスの構築などを中心に学んでいます。

大学院での学びを活かしてどのような将来像を描いていますか？

大学院で学んだ内容を、日々の急性期リハビリの現場にしっかり還元していきたいです。研究で得た成果を患者様の支援に繋げることはもちろん、後輩や実習生の指導などでも学術的な視点で分かりやすく伝えられるようになりたいと思っています。仕事・家庭・学びのバランスを大切にしつつ、自分が目指す作業療法士になれるよう成長し続けていきたいです。

~ WEEKLY SCHEDULE ~

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 時
月曜日		勤務(通勤含)											ゼミ		自宅学習				
火曜日		勤務(通勤含)											家事	自宅学習					
水曜日		勤務(通勤含)											家事	研究					
木曜日		勤務(通勤含)											家事	自宅学習					
金曜日	余暇											家事・育児	自宅学習						
土曜日	家事・育児			講義								家事・育児							
日曜日	家事・育児					講義					家事・育児								

学ぶ時間を確保するために工夫している事がありますか？

就業時間より少し早めに出勤し、少し頑張ればできそうなもの（部分的なレポート作成、研究関連のデータ収集業務など）を行うよう心がけています。私は朝の時間帯のほうが頭が回りやすいので、集中して行うことを心がけています。

お仕事と学業の両立で苦勞されたことはありますか？どのように工夫していますか？

仕事と授業の両立で大変なことは、家庭と勤務を両立しながら、研究や課題のための学習時間を確保することです。時間の確保のために、朝のスキマ時間を有効活用しています。また、家族の協力や職場からの理解・サポートがあり、効率よくスケジュールを組んでいます。

進学を検討している方へメッセージをお願いします！

先生方が非常に親密かつ丁寧にサポートしてくださるため、自分のペースで安心して課題や研究に取り組めます。日常の疑問を科学的に深められる素晴らしい場だと思います。進学に迷われている方はぜひ一步を踏み出してみてください！

Student Voice



上谷 華惟星 さん

2026年度入学者

リハビリテーション科学研究科 運動器障害

大西メディカルクリニック 勤務

現在のお仕事内容は？

現在は、外来整形外科クリニックで勤務しております。月曜日から土曜日まで勤務し、木曜日の午後と土曜日の午後、日曜日が休みです。1日勤務の時は、2時間の昼休みがあります。担当する患者さんは、地域で生活を送られている高齢者からスポーツに打ち込む中学生までの幅広い年齢幅です。1日に見る患者さんは平均20名程度で、1単位で1人の患者さんを見ていく流れになっています。疾患としては、変形性腰椎症や変形性膝関節症などの退行性疾患から事故による外傷、スポーツ外傷などがあります。

本学大学院進学のかっけは？

本学学部の卒業後に外来整形外科クリニックで勤務しました。卒業時にも、大学院の進学を考えましたが、本学教員より『臨床進学を考えましたが、本学教員より『臨床に出て課題を見つけてはどうか』と指導いただき、就職することを決めました。その後、臨床活動が続けていく中で部活動に励む中学生が腰椎分離症を発症してしまったがゆえに、大会に出られなくなってしまうことが多くあると知りました。その時の学生がとても辛そうで、腰椎分離症の発症を予防できないか？という点で私は課題を感じ、大学院での研究課題として取り組むことを考えました。大学院オープンキャンパスで教授とも話をさせてもらい、兵庫医科大学院への進学を決めました。

大学院ではどのようなことを学んでいますか？

現在は、腰椎分離症に関するスクリーニング手法の検討を行っております。腰椎分離症は成長期のアスリートに多い疲労骨折で、その発症予防に関する取り組みが必要とされています。私はその中でも腰椎分離症になってしまう子供とならない子供には何か動き方に違いがあるので？という疑問を感じ、その両者の動き方の違いを明らかにするための研究を行おうと考えています。

大学院での学びを通して、ご自身に何か変化はありましたか？

大学院での学びを通して、私自身の臨床能力、研究能力をもっと高めなければいけないとさらに感じるようになりました。ゼミを通して先生方から意見をいただく際には、その論理的思考や深く物事を考える力の差をとっても感じました。この差を埋められるように、深く物事を考えられるように日々の生活を意識して生活を送るようにしていこうと気持ちの変化がありました。

大学院での学びで、お仕事を役に立つ内容（知識、スキルなど）はありますか？

研究を考える上で先行研究のレビューを行いました。そこで新しく学んだことや知識を深めることができた内容を、仕事のリハビリを行うときに確認しながら行うことができており、いい循環ができていると感じています。

~ WEEKLY SCHEDULE ~

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 時
月曜日	家事 育児	勤務(通勤含)														家事 育児	余暇 自宅学習	睡眠	
火曜日	家事 育児	勤務(通勤含)														家事 育児	余暇 自宅学習	睡眠	
水曜日	家事 育児	勤務(通勤含)						職場 学習	勤務(通勤含)						家事 育児	余暇 自宅学習	睡眠		
木曜日	家事 育児	勤務(通勤含)						自宅学習	家事	ゼミ 家事・育児						余暇 自宅学習	睡眠		
金曜日	家事 育児	勤務(通勤含)						職場 学習	勤務(通勤含)						家事 育児	余暇 自宅学習	睡眠		
土曜日	家事 育児	勤務(通勤含)						家事	自宅学習	家事・育児						余暇 自宅学習	睡眠		
日曜日	自宅学習	家事	家事				余暇	自宅学習	家事・育児						余暇 自宅学習	睡眠			

学ぶ時間を確保するために工夫している事がありますか？

土日は講義がある時は仕事を休んで講義です。隔週水曜日がゼミなので、その時は時間有給で帰っています。毎日難しいですが、朝早く起きて時間を確保できるように工夫しています。

修了後の目標や将来の展望があれば教えてください！

今回の研究を踏まえて、前向き研究などを実施していきたいと考えています。また、今回学んだ研究の仕方や考え方などを臨床研究に活用していきたいと考えています。

働きながら大学院で学ぶ中で大変なことはありますか？

1日の拘束時間が長いので、昼休みを使って勉強するなどして時間を確保しようとしています。また、現在1歳になる子供もいて、子育てに時間をかけている部分もあるので、勤務後帰ってからの時間では足りない部分もあります。寝かしつけをした時に、一緒に寝てしまうこともあったり、夜眠たい中作業をしても効率が悪いと感じているため、最近は朝4時半ごろに起きて、そこから2時間ほど作業をするようにしたりしています。妻も仕事に復帰したので、木曜日や土日などの私の時間が使える時はご飯作ったりできることをしていますが、妻のサポートはとてもありがたいです。職場の方にも、大学院の進学に関しては応援してもらっていて、有給を使用することでゼミへの参加ができるようにしてもらっています。

進学を検討している方へメッセージをお願いします！

日々の臨床業務との両立は大変だとは思いますが、意欲があるうちにトライしてみる方がいいのではないかなと思います。そのためにも、臨床を一生懸命やることが生きてくると思いますので、一緒に頑張りましょう！応援しています。

リハビリテーション科学研究科

精神活動(人間活動科学分野)



佐野 菜緒子さん
2025年度入学者

本学大学院進学のかっけは？

本学の授業は多くが土日を開講しており、オンライン授業も積極的に取り入れているため、自宅と大学との距離があっても通学しやすいと考え、本学を志望しました。さらに、大学院では医療現場での作業モデル実践に関する研究を行いたいと考えていたため、医学モデルだけでなく作業モデルにも精通している作業療法学科の先生方のもとで研究活動をしたと思い、兵庫医科大学大学院への進学を決めました。実際に、先生方には普段の勤務や学会の日程を考慮していただくこともあり、柔軟に対応いただいています。本学は働きながらも研究がしやすい環境だと感じています。

大学院での学びで、お仕事を役に立つ内容(知識・スキル)はありますか？

臨床場面では、入学前に比べて、自分の臨床経験だけに頼らず、エビデンスに基づいた介入方法を取り入れようとする意識が高まりました。研究活動を通して学んだ最新情報へのアクセス方法や論文を、批判的に読むスキルなども役に立っています。もともと人前に出ることは苦手でしたが、他者に伝えるコミュニケーションスキルや人前で話す勇氣も少しずつ身につけてきていると感じます。

現在のお仕事内容は？

総合病院に勤務するうちに、呼吸器疾患をもつ患者さんの地域生活に興味を持つようになり、在宅生活に近い、呼吸器内科クリニックでの外来呼吸リハビリテーションに携わるようになりました。現在は、慢性閉塞性肺疾患や間質性肺炎、肺がんといった呼吸器疾患をもつ患者さんに対して運動療法中心の外来呼吸リハビリテーションを提供しています。患者さんがその人らしい生活を送れるように、運動療法だけでなく、日常生活のセルフマネジメント支援や活動への動機づけを高めるような支援も行っています。

大学院ではどのようなことを学んでいますか？

主に、地域在住の呼吸器疾患患者様の活動や参加への動機づけ、生きがいに焦点を当てた研究に取り組んでいます。息切れによって様々な作業活動の喪失体験を経験し、外出頻度が減りやすい呼吸器疾患患者の方々に対し、作業療法士として、その方が大切にしていく作業に参加できるような支援方法を模索しています。

大学院での学びを活かしてどのような将来像を描いていますか？

地域在住の呼吸器疾患をもつ患者様に対する地域でのサポート体制はまだ十分とはいえません。呼吸器疾患をもつ患者様が地域で生きがいをもって満足度の高い生活を送れるよう、大学院での学びを日々の臨床に還元していきたいと考えています。

~ WEEKLY SCHEDULE ~

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 時
月曜日		勤務(通勤含)						研究		勤務(通勤含)				研究			睡眠		
火曜日		勤務(通勤含)						研究		勤務(通勤含)				研究			睡眠		
水曜日		勤務(通勤含)						研究		勤務(通勤含)				ゼミ			睡眠		
木曜日			研究・自宅学習														睡眠		
金曜日		勤務(通勤含)						研究		勤務(通勤含)				研究			睡眠		
土曜日		勤務(通勤含)								講義・自宅学習							睡眠		
日曜日				講義・研究				講義・研究									睡眠		

学ぶ時間を確保するために工夫している事がありますか？

勤務先のクリニックは昼休みが長いので、その時間に1時間ほど研究に取り組むようにしています。また、電車通勤中にオンデマンド講義を視聴して空き時間を活用することもあります。勉強とプライベートのメリハリをつけるために、作業時間を決める、1日のTodoリストを作成するといった工夫もしています。

お仕事と学業の両立で苦勞されたことはありますか？ どのように乗り越えていますか？

仕事と授業の両立では、授業開講日と出勤日が重なる際に出勤日の調整が必要でしたが、院長や上司の理解があり、在学中は柔軟に対応していただいています。職場の協力があるからこそ、土日の授業や研究活動、学会参加が可能になっていと感じています。フルタイム勤務を続けながら研究の時間を確保する難しさだけでなく、忙しさによるストレスや研究のプレッシャーを感じることもあります。友人との時間や趣味活動などで気分転換を図り、ストレスを溜めないように心がけています。

Student Voice

リハビリテーション科学研究科

内部障害(病態運動学分野)

本学大学院進学のかっかけは？

- 1.理学療法士レジデントとしての臨床経験を通じて、クリニカルクエストが明確になり、それを明らかにしたかったため。
- 2.臨床に出てから、兵庫医療大学(学部)時代の先生方の授業の質の高さを改めて実感し、この環境でさらに専門性を高めたいと思ったため。
- 3.私の研究したい心臓・腎臓リハビリテーション分野で活躍されていらっしゃる松沢先生の指導を直接受けたいと思ったため。
- 4.授業がほぼオンラインorオンデマンドで、休日出勤しながらでも大学院進学が可能であり、進学へのハードルが下がったため。



杉本 凌さん
2025年度入学者

大学院ではどのようなことを学んでいますか？

- 1.私の研究テーマは、心不全で入院した患者様の筋力低下を早期に予測し予防することについてです。
- 2.専門的な講義や内部障害ゼミに所属する院生の研究テーマから学ぶことも多くあります。
- 3.内部障害ゼミは月に2~4回あり、研究の質問やアドバイスをいただきながらブラッシュアップしています。また、googleのチャット機能を使用し、松沢ゼミに所属している全員に気軽に相談でき、お互いに疑問点を解消できるような体制になっています。

現在のお仕事内容は？

現在勤務している病院は、神戸市内でも特に高齢化が進んだ地域の基幹病院という重要な役割を担っています。そのため、様々な背景を持つ患者様一人ひとりに最適なリハビリテーションを提供することが求められます。普段は全疾患の病棟を担当し、急性期患者様の機能回復に尽力しています。また、診療科回診や病棟のカンファレンスにも参加し、多職種と密に連携しながら理学療法を実施しています。加えて、集団での心臓リハビリテーションの実施により、患者様の社会復帰を誠心誠意サポートしています。過去のレジデント経験を活かし、チーム全体の知識向上を目指した勉強会の開催や、より質の高い医療を提供できるよう業務効率化の提案や常に自分にできることを探し、行動に移すよう心がけています。

大学院での学びで、お仕事を役に立つ内容(知識、スキルなど)はありますか？

大学院では、単に専門知識を詰め込むだけのものではなく、論文を読み込み物事の根本を深く掘り下げる考え方を学んでいます。これにより、患者さんの複雑な状態を紐解き、的確な評価から最適な治療プログラムを組み立てる「臨床推論」の能力が飛躍的に向上したと実感しています。

大学院での学びを活かしてどのような将来像を描いていますか？

臨床と研究の相乗効果を最大限に発揮し、目の前の患者様や地域全体に貢献できる理学療法士になる事が私の目標です。また、当院でも開始された理学療法士レジデント制度での後輩教育にも力を入れたいと考えています。

[illegible]

オンライン・オンデマンド授業への移行で、講義の視聴期間に幅を持たせてくれているので、通勤の電車で講義を受けたりできるのが嬉しいポイントです。おかげで対面授業と比較し、通学時間が不要となり、その時間を自己学習に充てることができています。また、オンデマンド授業は繰り返し視聴できます。また、オンデマンド授業は繰り返し視聴できるため理解を深められるほか、ゼミもオンラインで教員やゼミ生と密に連携(zoomでのオンラインゼミやGoogle Chat機能でのリアルタイムでの質問)できるため、時間を有効に活用しています。